

郡上農林事務所の普及活動状況 令和5年4月30日現在

今月の重点活動

■夏秋トマト 「郡上トマトの学校」実習始まる

新たな夏秋トマト農家の育成を目的に平成28年度に開設された「郡上トマトの学校」は、今春入校した1名と2年生1名の計2名体制で令和5年度の研修が始まった。各研修生は4月12日から室内での座学およびほ場での実習を開始した。

4月14日には、JA指導員、市営農アドバイザーおよび農業普及課の指導のもとでセルトレイ苗からポットへの仮植およびトンネル被覆を実施した。また、農業普及課からハウス内温度、水管理等についても説明し、研修生からの質問に対して回答することにより、研修生の幅広い技術習得に向け支援を実施した。

農業普及課では、今後も続けて研修を重ね、最終段までの確に収穫ができるよう関係機関と連携し、研修生への支援を行う。



【ほ場実習の状況】

郡上の農業・農村を支える人材育成

■就農支援 新規就農者研修施設の修了式・入校式開催

4月6日、JAめぐみの新規就農者研修施設の修了式・入校式が執り行われ、研修施設の一つである「郡上トマトの学校」を支援する農業普及課も来賓として出席した。

式では、研修施設の紹介や「郡上トマトの学校」修了生1名から研修の成果を、また入校3名からは研修にあたっての抱負の発表があった。

その後、JAめぐみの山内清久組合長が修了証を手渡し、新規就農への期待を述べられた。

令和5年度は「郡上トマトの学校」への新規入校生が1名、この学校を修了し夏秋トマトで郡上市に新規就農する方が1名あり、農業普及課では関係機関と連携しこの方々の支援を行う。



【研修成果を発表する修了生】

■関係機関との連携 郡上営農連絡会議を開催

4月19日に、令和5年度第1回郡上営農連絡会議を開催した。本会議は市、JA、農林事務所（農業振興課、農業普及課）の関係機関が集まり、郡上地域の農業振興に関連する情報共有と課題解決のために開催している。今回は、それぞれの新体制と今後の重点活動方針の説明を中心に検討し関係機関の連携を図った。また、共通課題の新規就農者の育成やスマート農業の今後の展開等についても協議を行った。

農業普及課では、今後もほぼ隔月で年6回会議を開催し関係機関との情報共有や連携を図り普及事業を推進していく。



【会議の様子】

安心で身近な「郡上の食」づくり

■夏だいこん 令和5年産ひるがの高原だいこんの栽培が始まる

4月14日から令和5年産ひるがの高原だいこんの播種が始まった。本年は雪解けが早く、3月以降の温かさもあり、ほ場準備は順調に進み、例年と同じくらいに播種を開始することができた。

資材の高騰もあり、だいこん栽培を取り巻く環境は厳しく、気象変化に対応できる品種の選定、生産資材高騰対策、ゲリラ豪雨による土壌流亡対策など、様々な取り組みが必要となっている。

農業普及課では現地試験及び調査を実施しながら、だいこんの安定出荷や品質の安定を確保できるよう支援を行っていく。



【播種後のだいこんほ場】

郡上農畜水産物のブランド展開

■夏秋イチゴ 役員会で新品種試験について検討

4月3日、高鷲町でいちご部会の役員会が開催された。役員会では、近年夏季の気温上昇による果実品質や収量への影響が懸念されているため、地域に適応した新品種の現地栽培試験について検討され、県農業技術センター育成1系統と民間企業育成1品種について試作を行うこととなった。

農業普及課では、研究機関と連携し試験の着実な実施をサポートするとともに、各種栽培技術の情報提供を通じた高品質安定生産支援を継続して実施する。



【役員会の様子】

■水稲 第9回「郡上おいしい米コンテスト」の開催に向けて

4月20日「郡上おいしい米コンテスト」の企画会議を開催し、今年のコンテストの開催について協議した。

第9回目となる今回は、11月18日の13時30分より、郡上総合庁舎で入賞者の表彰式、地元の道の駅や直売所が参加する競売会、県農業革新支援専門員による技術研修会という内容で開催することを決定した。また、タウン誌への特集記事の掲載、ケーブルテレビ、ポスター・チラシなどを活用しながら市民に広くPRすることも決定した。

この企画会議は、生産者の代表者と関係機関（JA・市・農業普及課）で構成され、日程・審査方法・催事内容などを企画会議で決定している。

農業普及課は、この企画会議の実質的な事務局として、コンテストを契機として郡上産米のブランド化を支援していく。



【企画会議の様子】